

徳法寺

秋彼岸中日及び永代経法要

開催日 9月23日（水・祝）

午後1時より 勤行『仏説観無量寿経』

午後2時より 法話 住職 杉谷伊吹

「私たちは思いの中で

生きている」

法話について ひとこと

今回の秋彼岸では「思い」という事をテーマに話をさせて頂く予定です。人生は思いがけない出来事の連続ですよ。そんな中に於いて、どのように自分自身を見つめ直して、生きてゆくのかという内容にしたいと思っております。

お知らせ 其の①

第二子（次女）が生まれました。名前は「玲唯」と書いて「れい」と呼びます。ちなみに長女は「瑠唯」と書いて「るい」です。どちらの名前にも「唯」が入っていますが、「天上天下唯我独尊」という仏教の言葉を基に、この一字を好んでつけております。

見守って下さった

皆様、ご助力頂いた方々に、今一度お礼申し上げます。

（伊吹）



石動山と七尾城

杉谷 淨

今年の三月、昨年亡くなった義叔母に手を合わせるため、中能登町井田にある従兄弟の家を訪ねました。小学生の頃、父から「病院の前に引越したらいい」といわれるほど病弱な子どもだった私は、毎年夏休みになると母の実家である井田の叔父の家に預けられ、自然に囲まれて過ごしていました。叔父の家には年上の従兄二人がおり、虫取りや模型作り、花札などのゲームをしながら過ごしていました。『ファーブル昆虫記』が愛読書となったのも従兄たちが遊んでくれたおかげです。叔父の家で経験したドキドキやワクワクのおかげで、引っ込み思案だった私も少しずつ積極的になっていったように思います。

井田で過ごす夏休みの中でも、毎年楽しみにしていたのが、近くの山にある二十m程落差のある滝への冒険でした。冒険とは言っても、私は従兄の自転車の後ろに座っているだけだったのですが、途中で出会うオニヤンマやアゲハチョウ、崖の窪みにいるアリジゴクを見つけたたびに目を輝かせていました。帰りには坂道を一気に走り下りるのですが、これも楽しかったのを覚えています。かつてこの滝は修験者の荒行の場だったようで、今では車いすの方も滝行体験ができるバリアフリーの滝としても知られています。

この滝がある石動山系は、奈良時代から山林修

行僧たちの修行場でした。平安時代には「伊須流岐比古（いするぎひこ）神社」という名前で記録が残っています。鎌倉時代になると真言宗系の僧侶によって「石動寺」が建てられ、最盛期には三百六十余りの院坊に約三千人の衆徒がいたと伝えられています。明治政府の廃仏毀釈政策により、ほぼすべての院坊が破却されてしまいました。現在はいくつかの院坊が復元されているそうです。

今回はこちらではなく、石動山系の北端にある七尾城に行ってきました。能登国の守護・畠山氏が戦国時代に築いた山城で、南北約二千五百m、東西約千m、面積は約二百五十二・六haに及ぶ全国屈指の巨大城です。ちなみに金沢城は三十八a、日本最大の平城といわれる江戸城が二百三十八aですから、その広大さには驚かされます。七尾の地名の由来となった七つの尾根筋を中心に多数の土塁、石垣、堀などを連ね、山麓には七尾の城下が広がっています。城の入り口にある七尾城史資料館から本丸跡まで高低差が二百五十mもあり、往復で百五十分かかるため、この日は本丸近くにある駐車場から、本丸・二の丸・三の丸など主要な所だけを回りました。それでも、尾根を切り取った「堀切」がされているためアップダウンが激しく、息を切らせながら四十分ほどかかりました。かつて上杉謙信が一万の大軍で包囲しながらも落城させることができなかったという理由が歩いてみると分かります。結局謙信は、内通者に謀反をおこさせることでようやく落城させています。後に前田利家が入城しますが、生活するには

あまりにも不便であるため、七尾城下の小丸山城に引越しています。こちらは高さ二十五・六m、広さは三・一六haとこいう、こじんまりとした城です。七尾城はまだ地震の修復が終わっておらず、城内を回る遊歩道の一部は今でも通ることができません。本丸跡に建てられている神社の鳥居も倒れたままで、石垣の一部もブルーシートがかけられています。

能登にはとても長い歴史と、沢山の文化財があります。これらを保護することは、観光資源になるというだけではなく、能登の人たちの誇りを取り戻すことにもつながります。自信をもって自分の故郷を語ることができるという事はとても大切なことであると思います。そのためにも、一日でも早く史跡が復元することを願っています。



七尾城本丸跡にある神社の鳥居

徳法寺 掲示板

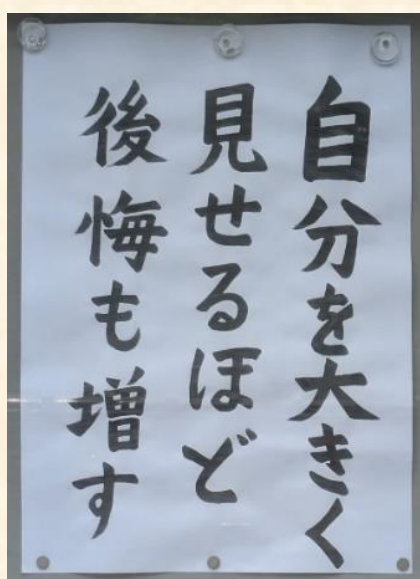
『我執』

杉谷 伊吹

自分の存在を認めてもらいたいが故に、話を盛りすぎてしまい、その結果痛い目に合う。そのような後悔を、誰もが一度は経験しているのではないだろうか。私も若かりし頃、自らの価値を見せつけたいがゆえに虚勢を張り、それにより居場所を失ってしまったという苦い思い出があります。当時は自分の主張と価値観を押し通すことしか頭になく、相手の考えを理解しようという気がまるでなかったのですね。当然のように周囲との関係性は悪くなり、結局は主張するどころか孤立してしまうことになりました。

あまりにも自己に執着し過ぎていたと気付いたのは、そんなことを何度も繰り返したあとでした。

そして、仏教に出会ってゆく中でそれを我執と言うのだと知りました。自己に対する強い執着が、多くの苦しみをもたらす原因の一つであるという事です。そうだと分かっているとしても、我執を離れることなど出来はしないのですが、努々（ゆめゆめ）忘るるなれという自戒を込めて、今回の掲示板に記した次第です。



お知らせ 其の②

本堂の畳表が新しくなりました。前の畳表は、私が子供の頃から使い続けていたものでしたから、いよいよ限界を感じておりました。

また、新しい畳縁は目に優しい緑色となっております。もう暫くはい草の良い香りもしていますので、是非お立ち寄り下さい。

（伊吹）



徳法寺からのご案内

心の相談室

毎月第四土曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町商店街にある「いちよう館」二階にて真宗大谷派の僧侶による「心の相談室」を開いております。個室で相談をお受けします。仏事はもちろん、家庭や職場、学校など、どのようなお話もお聞きします。相談は無料です。予約も必要ありません。相談内容は一切外に漏れることはありませんので、お気軽にお訪ねください。

サンガ茶話会

毎月第一木曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町にある東別院敷地内「真宗会館」一階囲炉裏の間にて「心の相談室」スタッフによる「サンガ茶話会」を開いております。座談形式となっております。僧侶やその場に集まった方々とお話しませんか。いろいろな方に聞いてほしい話、聞いてみたい話がある方はお気軽に参加してください。他の参加者の話を聞いていただいても構いません。参加は無料です。予約も必要ありません。出入りも自由ですので、途中参加、途中退室でも大丈夫です。お茶とお菓子をを用意してお待ちしておりますので、お気軽にご参加ください。

徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺前住職 杉谷 淨

八月 足利仏教 二十二 織田信長 6

九月 足利仏教 二十三 織田信長 7

十月 足利仏教 二十四 羽柴秀吉 1

本能寺の変に関して、近年、様々な資料の分析により、聞き知っていたものとは違う事実が次々と明らかになってきています。

信長と宗教との関わりも、比叡山焼き討ちや本願寺との戦いから、仏教に批判的であったように思われる方もいらつしやるかもしれませんが、神社仏閣への参拝も頻繁に行っていますし、キリスト教にも関心を持っていましたから、決して無宗教というわけではありませんでした。信長が、キリスト教をはじめ、特定の宗派に偏ることがなかったというのは、当時としては一般的なことで、これは日本の宗教文化として今も残っています。

文化的にも、茶道具に強い関心を持っていたことが知られていますし、焼き払った京都の町の復興にも尽力しています。極端な性格から乱暴者のイメージがありますが、決して一面的なものではなかったようです。

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。

編集後記・作品展

今回から不定期で、門徒の皆様が手掛けた作品を掲載させて頂こうかと思ひます。寺報の内容の硬さを緩和させる事や、賑やかさが出ると良いなど考えての試みです。もしご関心持たれた方が居られましたら、お声かけ下さると有難い事です。

まずは初回として、俳句を一句頂きました。

捕虫網 かまへ背中に 夏帽子

池川 善子

今年も過酷な夏がやってきましたが、熱中症に気を付けてつつ、元気に活動できるといいですね!!

(伊吹)

徳法寺のホームページが新しくなりました。作成をお願いしております中川様が、AIと連携して下さったので、分かりにくい語彙は、その場で解説してくれるようになりました。是非一度ご覧になってください。

(淨)

表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

TEL 076 (241) 5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>